

山岳友の会会報

2025 年 4 月 第 55 号



切戸に夕日沈む（蝶ヶ岳） 撮影：荻野 秀夫

も く じ

第 72 回現地研修会（草津白根山）	報告 竹原 文子	2
第 74 回現地研修会（六甲山）【前】	報告 渡邊 修	3
2025 年度通常総会・第 26 回憧憬の森講演会		
	報告 小林 久雄	8
2025 年通常総会資料		9
事務局よりお知らせ		15

第 72 回現地研修会

「草津白根山、榛名山、横手山を巡り草津温泉に」報告

竹原 文子

研修日 2024/10/10～10/11

参加者 12 名



♪草津良いトコいちどはおいで♪と唄われた有名な温泉地ですが、残念ながら訪ねたことがないので楽しみにしていました。

しかし、初っ端から篠ノ井線に電気信号の不備が発生して電車が遅れ、竹原は 30 分の遅刻。みなさんをお待たせしてしまいました。すみません。呑みながら待っていただいたようですが。

松本から 10 名、途中から 2 名、総勢 12 名の旅です。いつものごとく、早速呑みながらおしゃべりも賑やかです。幸いにもお天気にも恵まれ、楽しい旅になりそうです。

「妙義ふれあい道の駅」で軽く昼食、榛名山へ。榛名山は足でも登れそうでしたが、今回はロープウェイ。上につれ、眼下にぼ

っかり榛名湖が。少しガスが流れてきました。ロープウェイ終点（1366m）から少し登山頂へ（1391m）。

榛名富士と呼ばれているのは富士山によく似ているため、浅間神社と同じ『椎名富士大神（木花開耶姫）』他三神が祀られているそう。好天なら、筑波山～赤城山～白根山、さらには富士山まで見えるようです。

いよいよ今回の目的地『草津温泉』に向かって Go～。湯畑とは？興味しんしん。バスを降りて歩き出すと、あちらもこちらも人だらけ。意外と若人が多い。温泉地は年寄りと思い込んではいけませんね。



湯畑は思っていたより広く、木枠を組んだ中に湯を通して（冷ますため？）池のように湯が集まっています。大がかりです。うまく説明できないので写真をごらんください。湯畑をぐるっと回遊し、近くの温泉神社にお詣りして、今日の宿高松に向かいます。

女子部屋 4 名、荷ほどきをして、お風呂に入ったり足を伸ばしたり、夕食の宴会に備えます。

いよいよ宴会開始。私にとっては年に数回のごちそうの数々が目の前に。お酒もたっぷり呑み放題。それぞれに話がいきかい、呑んで食べての楽しいひとときが過ぎていきます。

宴会の終わりは、藤原さんがその筋の方から教わったという、初めて耳にするユニークな締めをしてくださいました。一聴の価値のある楽しい締めでした。機会があったらまたお願いしたい。

部屋に戻り、お風呂に入ったりテレビをみたりして、ゴロゴロ。食べ過ぎた…。

宿の湯はあまり熱くなく、やわらかいお湯で、いくつもの湯舟と露天、全部入っちゃいました。極楽、極楽。



翌朝。食べ疲れ、呑み疲れで昨夜は早い就寝だったので、今朝は早起きしてお散歩に。草津は坂の町で、上ったり下ったりしていると、公園があったり湯元につきあったりして、なかなか趣のある町です。朝食までそぞろ歩きを楽しみました。

朝食バイキングをいただき、玄関前で記念写真を撮り出発。帰路、白根山を眺めながら（噴火の関係で入山禁止）志賀草津ルート of 山岳景観を楽しみました。

国道最高地点（2172m）でスカイレーターとリフトを乗り継ぎ横手山山頂へ。山小屋があり、パン屋さんが人気とのこと。山頂テラスからは眼下一望、すばらしい眺めです。

渋峠は長野県、志賀高原を下り小布施へ。道の駅で昼食。高速で帰路の予定でしたがうれしいハプニング。会員の堀内さんのご好意で、農園でクリ拾いをさせていただくことになりました。堀内農園にはたくさんのクリの木があり、ちょうどクリの収穫期。みなさんたくさんのクリをゲットしてニコニコ。堀内さん、ありがとうございました！

お土産のクリを抱えて帰路へ。無事松本に帰着しました。

お天気に恵まれ、温泉、お酒、豪華宴会、クリ拾いとめいっぱい楽しんだ友の会研修旅行でした。

みなさんお疲れさまでした。

第 74 回現地研修会

「六甲山と比叡山を巡る有馬温泉への旅（前半）」報告

渡邊 修

令和 6 年度の現地研修会も回を重ね今年度最後の締め括りとなり、日本三大名泉の下呂温泉、草津温泉を既に制覇し、残すはただ一つ…有馬温泉「六甲山と比叡山を巡る有馬温泉への旅」と冠して 2 月 26 日（水曜日）～27 日（木曜日）総勢 14 名の参加者により開催されました。

当初の参加予定者は今年度の現地研修会では最多の 18 名でしたが、急遽 4 名の方が葬儀等諸般の事情により、このメインイベントを大いに楽しみにしていたにも拘わらず残念ながら涙を呑んでの不参加となりました。

昨年度の「恵那峡と高山を巡る下呂温泉の旅」に端を発した「日本三大名泉巡り？」山岳友の会会員も齢を重ね、現地研修会もいよいよ「山」から「海」へそして「温泉」へと移り変わりそうな気配の中、10 月には「草津白根山、榛名山、横手山を巡り草津温泉に」も無事終了、そして今回の「六甲山と比叡山を巡る有馬温泉への旅」が大トリとしての開催と相成りました。

木曾組（澤田、高岡、渡邊）は何時もの如く澤田車で時間に余裕を持って王滝村を7時に出発予定でした。5時には起床してシャワーを浴びてバスでの飲食を考え、軽い朝食を済ませて身支度を整え荷物を持って澤田宅へ向かいました。

お隣の澤田宅（我が家から道を挟んで直ぐ隣の約3m程の近距離...）に行くと開口一番、義幸君から「修...ユリさんはYさんのお父さんが亡くなり、昔からお世話になっているとこのことで急遽行けなくなった！また、今回現地研修会初デビューの梢も一緒にそちらに行くので欠席との連絡があったよ！」えっ...！随分楽しみにしていた女性2人が行けないのは何とも残念で寂しいなあ～！特に梢は事前に「差し入れは何を持って行けば皆さんに喜ばれますか？」と初参加をととても楽しみしていただけに...でもこればかりは仕方ないなあ...！と王滝を出発しました。ユリさんから差し入れがあるとのことで、途中木曾町福島に寄ってユリさんから「残念ながら急遽、行けなくなったので皆さんで召し上がってください。」と酒、漬物等を受け取り一路小黒川PAへ...予定時刻よりも少し早目に到着しバスを待ちました。

程なくして太陽の光を受けオレンジ色に輝く一際目立つ？朝日観光バスが到着し早々に荷物を積み込み乗車。

「おや！何時になく静かだな？...何時も居る筈の者が二人も見当たらない！」副会長のフーミンこと竹原さん、久雄さん：小林さんも...どうやら急遽、葬儀、諸般の事情により欠席とのこと！...えっ！何と急遽4名も減なの...バス代随分割高になるなあ～と思いつつも声には出さずにそっと胸に抑え最後尾中央でどんと鎮座？する山口会長の横の席に着座。

既に松本駅（アルプス口乗車）から飲んでいる皆さんはアルコールが随分回っている様子が一目で解り、何時になくトーンも高く饒舌に！...飲み始めから僅か50分程の間に既にワインボトルや缶ビールが何本も空になっていました。（と言っても...もはや全く驚く事はありません！何時もの現地研修会では同様のことでありますから...！）

運転手さんから行程、注意事項等の説明を聞いた後、小黒川PAを出発。山口会長の挨拶、何と...山口会長が今日の為に満を持して持参してくれたあの宮坂醸造の真澄の純米大吟醸「夢殿」720mlで乾杯！日本酒好きの皆さんはご承知の通りお値段も格別ですが...お味は「う～ん何とも旨い！...旨すぎる！正に絶品、格別です。」一般庶民には中々口にするのでできない銘酒だけに山口会長...本当に有り難うございました。お酒の苦手な方も少々召し上がりあっという間に瓶が空になったのは言うまでもありません。勿論、お酒の苦手な方からも美味しいとの声が上がったのは言うまでもありません。（山口会長、...次回のメインイベントの研修会にも是非ともお願い致します！）

今回残念ながら参加出来なかった副会長のフーミンからは何時も通り漬物等の差し入れがありました。また、何時も用意してくれる小袋に分けられて各自に配られる「おやつ」は今回、村重さんから各自に配られました。そうです、子供の頃の楽しかった遠足を思い起させるあの「色々な種類のお菓子、オツマミ等が入っているおやつ」です。村重さん有り難うねえ！

その他にも多くの皆さんがビール、日本酒、ワイン、各種オツマミに果物、漬物等々...とても飲み切れない、食べきれないほど沢山の差し入れがあり、サロン形式の中央に配置されたテーブルには所狭しと並べられ、大いに盛り上がりました。

皆さん美味しい差し入れを沢山いただき本当にありがとうございました。

バスは1時間に1回運転手さんの休憩時間（トイレタイム等）を取りながら昼食場所の滋賀県大津市の日吉大社、芙蓉園を目指します。天気も青空が見え気温も徐々に上がり正に現地研修会日和です。勿論、バスの中では「飲めや！食べろや！」の大騒ぎ...何時も

と違うことと言えば...そうです皆さん異口同音に言っていたのは、予想通りと言うか...久雄さんが居ないことでバスは何時もとうって変わってとても静かなのです。良きにつけ悪きにつけ久雄さんの大きな存在意義を改めて知ることとなりました。大きな声では言えませんが...また、小さな声では聞こえませんが...此処だけの内緒の話ですが、「たまには...静かでもいいよ！」と言っておられた方もいないわけではありませんでした。

バスでの楽しい宴は延々と続き、途中トイレ休憩、買い物をしながら予定時間を少しオーバーするも日吉大社の前にある昼食場所である「芙蓉園」に到着し、勿論ビールで乾杯をしてからの昼食となりました。

「日吉大社」

「日吉大社」は比叡山の山麓に鎮座し、およそ 2100 年前、崇神天皇 7 年に創祀された、全国 3800 余の日吉・日枝・山王の総本宮です。平安京遷都の際には、この地が都の表鬼門（北東）にあたることから、都の魔除、災難除を祈る社として、また、伝教大師が比叡山に延暦寺を開かれてよりは天台宗の護法神として多くの方から崇敬を受け、今日に至っています。境内には約 40 の社があり、全ての神様を総称して「日吉大神」と呼びます。

昼食後は本殿、権殿（国宝）等は見学せずに境内を散策し記念写真を撮り少し早めに「日吉大社」を後にして、本日のメインである「延暦寺根本中堂」へと向かいました。「延暦寺根本中堂」へは予定時刻少し前に到着となりました。

「延暦寺」

百人一首で有名な慈円は、比叡山について「世の中に山てふ山は多かれど、山は比叡の御山（みやま）をぞいふ」と比叡山を日本一の山と崇め詠みました。

それは比叡山延暦寺が、世界の平和や平安を祈る寺院として、さらには国宝的人材育成の学問と修行の道場として、法然、親鸞などの日本仏教各宗、各派の祖師高僧を多数輩出し、「日本仏教の母山」と仰がれているからです。また、その歴史と伝統が高い評価を受け、ユネスコ世界文化遺に認定された、滋賀・京都を代表する地です。

「延暦寺」は滋賀県大津市坂本本町にある標高 848m の比叡山全域を境内とする天台宗の総本山の寺院です。約、500 万坪（甲子園球場のおよそ 500 個分）の広大な敷地を東塔（とうとう）、西塔（さいとう）、横川（よかわ）の 3 エリアに区分し、3 塔 16 谷合わせた比叡山全体が「延暦寺」になります。



本尊は薬師如来。正式には比叡山延暦寺と号する。平安時代初期の僧・最澄により開かれた日本天台宗の本山寺院です。住職は天台座主と呼ばれ、末寺を総括する。国宝的人材教育の学問と修行の道場として、法然、親鸞などの日本仏教各宗、各宗派の名僧を多数輩出。「日本仏教の母」と呼ばれています。文化財として、国宝は根本中堂、金銅経箱ほか、重要文化財には根本中堂廻廊、絹本著色天台大師像ほか多数を所蔵しています。

長野県出身者として初の座主となられた「半田孝淳猊下（はんだこうじゅんげいか）：長野県上田市常楽寺住職、京都、曼殊院門跡門主（まんしゅいんもんせきもんす）」を

務められ、2006 年（平成 18 年）2 月 1 日に第二百五十六代天台座主に上任されました。当時、長野県出身者では初の天台座主ということもあり、テレビ、新聞等各種メディアで大きく報じたことを記憶の方も多いことと思います。

バスを降りて大講堂へ向かう前、正面に一際目立つ石碑が現れました。石碑に刻まれているのは...「照千一隅 此則國寶（一隅を照らす 此れ則ち國寶なり：自分がいる場所で一生懸命努力することで、それが積み重なって国全体を照らし真の宝になる。）」とする考え方で天台宗開祖最澄の余りにも有名な言葉であり、この文字は最澄の直筆と言われています。（気づかずにさあ〜と何気なく通り過ぎてしまった方もおられたのでは...!）

此处を過ぎて、我が山岳友の会ご一行様は先ず大講堂へと向かいました。「大講堂」は学問修行道場で重要文化財に指定されています。法然や親鸞をはじめ、比叡山で学んだ僧侶が全て祀られています。堂内にはそれらの僧侶の像があり、左端には聖徳太子の像も見られるとの事でした。最初に此处でお参りをしました。堂内の像についてはあったのかさえも記憶にありません。大講堂を出て横にある色鮮やかな朱塗りの鐘楼。鐘楼の中に柱が有る珍しい造りで、この中の大きな鐘は大晦日の NHK「ゆく年くる年」の中継にも登場する鐘で重さは 4.5 トンもあります。有料（100or200 円：いかんせん、バスで沢山飲み過ぎて随分酔っているので定かではありませんが...）で鐘を突くことができました。山岳友の会を代表して山口会長と村重さんが開運を願ってまた、酒の力も借りながら勢いよく渾身の力で鐘を突いていました。

鐘楼から参道を暫く下って行くと、いよいよ延暦寺のメインである「根本中堂」が見えてきました。「根本中堂」は延暦寺最初の仏堂で国宝に指定されています。私は此处「延暦寺」を訪れるのは今回で 3 回目になります。最初は中学校 3 年生の修学旅行、2 回目は職場に入って 2〜3 年目の 20〜21 歳？の頃ですからもう随分昔 45 年以上も前の事なので余り記憶にありません。

此处、根本中堂での最初の注目ポイントは、仏様を同じ目線の高さで見られることです。奈良の大仏様はじめ大仏様という下から見上げるものが殆どなのですが、此处根本中堂の仏様は例外で私達と同じ目線の高さにあります。下には「修行の谷間」と呼ばれる通路が見えて此处を修行僧が歩きます。

現在、延暦寺根本中堂と廻廊は 2016 年（平成 28 年）から大改修工事が約 10 年の年月を掛けて行われており、2026 年（令和 8 年）頃までには完成すると言われています。この大改修の目的は、「**伝統文化財の継承と後世に貴重な文化財を伝えるため！**」（役人が好んで使う大義名分のフレーズ）約 60 年振りの大規模なもので江戸中期（宝暦期）の姿にできる限り戻す復旧整備が続けられています。

余談になりますが、私はかつて善光寺さんからの依頼で山門（国の需要文化財）の修復工事の際に使用される木材の販売（天然サワラ）に携わった経験があります。依頼時には山門は檜皮葺（ひわだぶき：ヒノキの樹皮を屋根に葺いたもの）でしたが、建立当時は栩葺（とちぶき：スギ、サワラを板にして葺くもの）板の中、厚さによって順に柿（こけら）、木賊（とくさ）、栩（とち）葺きであったことが資料や山門に残されていた「栩板」等の現物が残っていたことで、現在の檜皮葺から元の栩葺の姿に戻す事になりました。勿論、かつての姿に戻す事は資材の減少に伴い調達ははじめ、技術者の確保等様々な面から並大抵な事でなく非常に困難を極めるためハードルが高くなります。しかしながら、文化庁、（財）文化財建造物保護協会等は建築された当初の元の姿に復元することを前提にしているため、

元に戻す事業については極めて寛大です。

今回、根本中堂には巨大な素屋根が組まれその中で工事期間中も参拝ができる様に有難い処置がとられ、修復工事の様子が間近で見ることができました。また、特別なステージも設けられ、此処では根本中堂の銅板葺き、廻廊の栩葺き屋根の葺き直しや全体の塗装彩色の修理、塗装彩色の塗り直し等を見ることができました。延暦寺さんに感謝、感謝！

さて、もう一つの注目ポイントとなるのは撮影禁止区域になりますが、根本中堂の本尊・薬師如来像の前に灯る3基の「不滅の法灯」です。燃料は菜種油で、油が切れると火が消えてしまうことから、「※油断大敵」の語源にもなっています。（※複数の説がありますが...其のうちの一つが延暦寺の不滅の法灯。法灯の油が絶えないように、気を抜かず注意を払うべきという教えから、油断大敵という言葉が生まれたと考えられています。）

そして皆さんわりと見落とされてしまうのですが、天井を見上げると護摩炊きの煤で黒くなっていますが、格天井（ごうてんじょう：太い角材を格子に組み、その上に板を貼った天井のことで、寺院建築、書院造りなど格式の高い部屋に用いられます。）には花模様が書かれています。「不滅の法灯」は開創依頼1200年以上消えることなく灯り続けているそうですが...！疑う気持ちなど毛頭ありませんが延暦寺がそう言っているのですからまず間違いはないと思います。（元亀2年9月12日：1571年9月30日に近江国滋賀郡（現在の滋賀県大津市）の比叡山延暦寺を、織田信長の軍が攻めた戦い。この戦いで信長軍は延暦寺の伽藍を焼き払い、僧侶、学僧、上人、児童の首をことごとく刎ねたと言われています。この時法灯の灯は一度消えましたが、山形県立石寺に分灯されていた火を延暦寺に返還して復活されました。その後、不滅の法灯は再び延暦寺に灯され、現在に至っています。）



山口会長はじめ皆さんが、今回は素屋根が外され無事に改修工事が完了したら、再度現地研修会で来たいと言っておりました。

根本中堂を確り見学した友の会ご一行は大講堂前で集合写真を撮ってからバスに戻り比叡山を後にしました。途中、夢見が丘展望台で眼下に広がる神戸を一望しながら記念写真を撮影。有馬温泉：有馬御苑を目指して車中での軽めの宴となりました。

「有馬温泉」

太閤・秀吉も愛した関西の奥座敷の有馬温泉。有馬温泉は、兵庫県神戸市北区有馬町（摂津国）にある日本三古湯の温泉。枕草子の三名泉にも数えられた。また、室町時代には万里集九が草津温泉や下呂温泉とともに「三名泉」とし、江戸時代には林羅山もこれらの三温泉を「天下の三名泉」と記しています。

この有馬温泉では、東西走行の断層からは低温泉、南北走行の断層からは高温が噴出している。それぞれ、湧水口では透明だが、空気に触れ着色する含鉄塩化物泉（赤湯）は「金泉（きんせん）」、それ以外の透明な温泉は「銀泉（ぎんせん）」と呼ばれています。

「金泉（きんせん）」、「銀泉（ぎんせん）」という名称は、有馬温泉旅館協同組合の登録商標となっています。

江戸時代の温泉番付では当時の最高位である西の大関に格付けされた。瀬戸内海国

立公園の区域に隣接しています。

「有馬山猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはす：

（ありまやま みなのおさはら かぜふけば いでそよびとを わすれやはする）」

訳：有馬山の近くにある猪名（いな）にある笹原に生える笹の葉が そよそよと音を立てる。まったくそよ（そよよ、そうですよ：笹の葉の立てる音のように） どうしてあなたのことを忘れたりするものですか

百人一首 58 番 大弐三位（だいにのさんみ：紫式部の娘） 藤原賢子（ふじわらのかたこ） 「後拾遺集」恋二・709

バスは 17 時過ぎ宿の仲居さん達の熱烈な歓迎を受け、本日の宿泊場所である有馬温泉：有馬御苑に到着し、管内の説明を受けた後夫々の部屋に入室、18 時 30 分からの懇親会に向けて三名泉最後の待ちに待った、そして否が応でも期待が高まる「金泉」、「銀泉」を目指し温泉へ直行となりました。

以降は次号までお待ちくださいませ！

レポーター：ペンネーム：獺祭 0 3 6 （DASSAI 0 3 6）ことドラえもん

【写真：澤田 義幸】

2025 年度通常総会・第 26 回憧憬の森講演会報告

小林 久雄

松本城の桜の開花宣言が行われ、ようやく春らしくなった 4 月 5 日、暖かい日差しの中、大勢の参加で無事に総会を開催することができました。

冒頭に、駅前の焼き鳥店鳥臣の土屋店主より、岳都松本音楽祭のお誘いがありました。

山口会長からの挨拶に続き、前田議長のもとで 15 年目の予定が決定しました。6 月の別所温泉や 8 月の蝶ヶ岳・常念岳の縦走に、10 月の伊豆大島など盛り沢山です。多くの参加を宜しくお願い致します。



続いて、上高地自然公園財団の加藤さんから、上高地再考と題してお話いただきました。

まずは駐車場管理の現状や公衆トイレの維持管理の実態、遊歩道維持管理など詳しくお話いただきました。ニホンザルやツキノワグマなどの野生動物対策については、涸沢談話会で香取さんがお話し下さる予定ですので楽しみにしておきましょう。

さらに、コロナ禍でここ数年随分ご苦労されたことや、雪形や上高地をめぐる歴史のお話、大正池など梓川の水力発電の歴史や戦争に関わる秋水開発の秘話など、大変貴重なお話をお聞きすることができました。

時間いっぱいのお話で盛り上がりました。ありがとうございました。

次に、総会資料を添付しておりますのでご覧ください。

【写真：荻野 秀夫】

2024 年度友の会事業報告

設立 14 年目の 2024 年度は、事業を概ね計画通りに開催することができました。
以下、主な事業について報告します。

○総会

通常総会 4 月 7 日(日) 松本市駅前会館 36 名参加 (委任状 46 通)

○運営委員会

第 19 回運営委員会 3 月 15 日(土) はなむら 10 名

○憧憬の森講演会

第 24 回憧憬の森講演会 4 月 7 日(日) 松本駅前会館 36 名参加

「山岳に生息するエグリトビケラ類の系統進化と生態的特徴について」

講師：鈴木 啓久 氏 (岐阜県立飛騨高山高校、本会会員)

第 25 回憧憬の森講演会 12 月 14 日(土) 松本駅前会館 30 名参加

「霊長類を追ってアフリカから信州へ」

講師：松本 卓也 氏 (信州大学理学部、本会会員)

○現地研修会

第 70 回記念現地研修会

6 月 20 日－21 日「荒船山に登り、舌切り雀のお宿に泊まる」13 名参加

第 71 回現地研修会

8 月 29 日－8 月 30 日「日光東照宮、華厳の滝を巡り日光白根山に登る」15 名参加

第 72 回現地研修会

10 月 10 日－11 日「草津白根山、榛名山、横手山を巡り草津温泉に」10 名参加

第 73 回現地研修会

11 月 8 日－9 日「紅葉の安達太良山に登りポリネシアンショーを鑑賞する」12 名参加

第 74 回現地研修会

2 月 26 日－27 日「六甲山と比叡山を巡る有馬温泉への旅」14 名参加

○会員集会 12 月 14 日(土) 松本駅前会館 30 名参加

○第 29 回上高地談話会 (第 12 回潤沢談話会) 7 月 8 日－9 日 潤沢ヒュッテ 20 名参加

「山を歩いて半世紀」

講師：中嶋 豊 氏 (山岳イラストレーター)

○会報の発行 4 回発行 (4 月 18 日、8 月 8 日、10 月 17 日、1 月 6 日)

○上高地ステーションの整備、随時

2024年度 友の会 会計報告

(期間:2024年4月1日 - 2025年3月31日)

収 入		支 出	
前期繰越金		管理費 郵便	¥20,434 ……⑥
会 費	正会員	事業費 現地研修会	¥3,223,978
	家族会員	上高地談話会	¥265,500
	学生会員	第25回憧憬の森講演会	¥29,971
	賛助会員	事業費 計	¥3,519,449 ……⑦
	会員(過年度)		
年会費 計		会議費 総会会場使用料他	¥12,987 ……⑧
事業費	現地研修会	その他 研修企画料・乗務員費用他	¥231,117
	上高地談話会	上高地ST使用料(養魚池メンテナンス)	¥15,400
	事業費 計	その他 計	¥246,517 ……⑨
その他 口座利子			
収入合計 (①～④合計)		支出合計 (⑥～⑨合計)	¥3,799,387 ……⑩
差引 残高		次期繰越金	
(⑤-⑩)		次期以降会費	
		残高計	

監査報告書

2024 年度信州大学山岳友の会の収支決算について、関係書類等に基づき監査したところ、間違いなく処理されていたので報告します。

2025 年 3 月 31 日

監事

山田 直

2025 年 4 月 2 日

監事

藤澤 高穂

2025 年度信州大学山岳友の会事業計画

基本方針

友の会は設立 15 年目を迎えますが、次の基本事項に基づき事業を計画します。

1. 信州大学の山岳研究（信州山の環境研究センター）を支援します。
2. 会員相互の親睦と、心を豊かにする講座・研修会並びに講演会を開催します。
3. 大学と市民を結ぶ取り組みを考えます。
4. 会員を増やし、会の活動を充実します。
5. 会報は、会員の協力をいただき 4 回発行します。

事業計画

期 日	内容等	備考(場所等)
4 月 5 日(土)	通常総会 憧憬の森講演会 『上高地再考!』～自然公園財団の活動等から上高地を考える～ 加藤銀次郎氏（自然公園財団上高地支部、本会会員）	松本駅前会館
6 月 25 日(水)～ 6 月 26 日(木)	第 75 回現地研修会「紫陽花の塩田平を塩爺と歩き別所温泉へ」	別所温泉
7 月 14 日(月)～ 7 月 15 日(火)	第 30 回上高地談話会（第 13 回涸沢談話会） 「中部山岳国立公園 上高地におけるサルとクマ — 対策／管理のいまとこれから—」 香取草平氏（自然公園財団上高地支部）	涸沢ヒュッテ
8 月 26 日(火)～ 8 月 28 日(木)	第 76 回現地研修会「蝶ヶ岳と常念岳」	蝶ヶ岳ヒュッテ 常念小屋
10 月 7 日(火)～ 10 月 9 日(木)	第 77 回現地研修会「三原山（伊豆大島）」	伊豆大島
<u>11 月 3 日(月)～</u> <u>11 月 4 日(火) ※</u>	第 78 回現地研修会「赤城山」 (※日程が変更となりました)	赤城温泉
12 月 6 日(土)	憧憬の森講演会「未定」	松本駅前会館
2 月 10 日(火)	第 79 回現地研修会「岩殿山（大月市）」	

2025年度 友の会 収支予算

収入の部 (円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	増 減	備 考
繰 越 金	△ 1,175	163,610	△ 164,785	
会 費	138,200	138,300	△ 100	正 会 員 : 78名 76,000 家族会員 : 3家族 6,000 学生会員 : 2名 200 賛助会員 : 9口 55,000 過年度会費 1,000
事業参加費	2,398,200	3,496,298	△ 1,098,098	
雑 収 入	8	8	0	
計	2,535,233	3,798,216	△ 1,262,983	

支出の部

管 理 費	20,000	20,434	△ 434	郵便・消耗品 ほか
事 業 費	2,419,200	3,519,449	△ 1,100,249	現地研修会 ほか
会 議 費	30,000	12,987	17,013	総会
雑 費	55,500	246,517	△ 191,017	研修企画料等 ほか
予 備 費	10,533	△ 1,175	11,708	残金は翌年度へ繰り越し
計	2,535,233	3,798,212	△ 1,262,979	

友の会役員(2025-26年度)

会 長	山口 孝
副 会 長	熊谷 久
	竹原 文子
運営委員長	小林 久雄
運営委員	栗澤 徹
	奥原 仁作
	佐々木 明彦
	澤田 義幸
	中村 秋男
	細萱 繁
	横田 耕太郎
	渡邊 修
監 事	藤澤 高穂
	山田 直
顧 問	青柳 薫
	小林 銀一
参 与	市川 荘一
	高橋 和之
	中嶋 豊

事務局よりお知らせ

2025 年度より事務員の窓口業務が月曜日 9～16 時のみとなります。
よって、メール・FAX でご連絡やお問合せをいただきましたも、お返事に 1 週間程度
お時間をいただく場合がございますが、何卒ご了承くださいますようお願いいたします。

信州大学山岳友の会会報 第 55 号
発行日：2025 年 4 月 28 日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
TEL：0263-37-3332
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp